

議 長	副議長	事務局長	次 長	係 長	係 員
					



平成30年9月26日

三沢市議会
議長 小比類巻 正規 殿

三沢市議会

- 議員 堤 喜一郎 
- 〃 小比類巻 正規 
- 〃 西 村 盛 男 
- 〃 遠 藤 泰 子 
- 〃 下 山 光 義 
- 〃 田 嶋 孝 安 

議員個人研修の復命について

先に議員個人研修を行った結果について、次のとおり復命いたします。

記

- 1. 期 間 平成30年7月17日（火）から7月19日（木）
- 2. 視察先 香川県 高松市
香川県 善通寺市
- 3. 目 的 高松市ユニバーサルデザイン基本指針について
ユニバーサルデザインに対応した屋島競技場について
地元特産物の商品開発及び販路拡大について
- 4. 概 要 別紙のとおり



以上

7月18日(水) 9時00分～11時00分
高松市政策課ユニバーサルデザイン推進室

■高松市ユニバーサルデザイン基本指針について

(1) 背景・目的

高松市においても、国と同様に少子・高齢化が進展しているほか、障がいのある人の社会進出の機会の増加や、国際交流の活発化による観光客や在住外国人の増加などにより、様々な立場や個性を持つ人が共に暮らす機会が増えています。そのため、今後は、一人一人の多様性が尊重され、誰もが安心して快適に生活できるよう、施設や道路の整備などのハード面だけでなく、制度や施策の充実などのソフト面を含めた、総合的なまちづくりを推進する必要があります。そのためには、幅広い分野の施策にユニバーサルデザインの考え方を取り入れながら、市民、事業者、市民活動団体等も巻き込み、全市的な取り組みを展開するため、本指針を策定することとなりました。

(2) ユニバーサルデザインとは

・年齢や性別、障害の有無、国籍等の違いに関係なく、最初からできるだけ多くの人が使用できるよう、製品や環境をデザインすること。

※バリアフリーを含んだ包括的な考え方。

(3) 取り組み事例等

- ①心のユニバーサルデザイン啓発講座
- ②パラスポーツ大会、事前合宿の誘致
- ③観光案内所の設置 (※JNTO認定カテゴリーの最上位)
- ④鉄道駅施設バリアフリー化
- ⑤ピクトグラムを用いた案内板の設置
- ⑥申請書等のユニバーサルデザイン化 (※UCDAアワード4年連続受賞)
- ⑦UDたかまつプロジェクト

(話した言葉の文字表示や、多言語自動翻訳、読み上げ機能等を持つタブレットを設置) ほか

(4) その他

詳細は別添資料のとおり

高松市創造都市推進局

文化・観光・スポーツ部スポーツ振興課

■ユニバーサルデザインに対応した屋島競技場について

(1) 施設概要

名称：高松市屋島競技場（屋島レグザムフィールド）

建設工事費：約67.5億円

収容人数：6,000人（駐車台数370台）

設備：室内競技場、ジョギング走路、会議室、更衣室、大型映像装置 等

(2) 施設の主な特徴

①全国初となる競技場併設型の室内競技場

・屋外競技スペースの外周部に、棒高跳び公認競技が可能な「室内競技場」が整備されており、走り幅跳びや三段跳び、その他ウォーミングアップ等にも活用できるものとなっている。

②ユニバーサルデザインの視点

・各種スロープの設置、車いす利用者への配慮、視覚障がい者への配慮がなされているとともに、多目的トイレ、障がい者用投てき設備等が整備されている。

③距離の異なる複数のウォーキング・ジョギングコース

・1周300mから950mまで、4種類のコースを整備。

④イサム・ノグチの彫刻遊具を配置したスポーツ広場

・世界的にも著名で、高松市にゆかりのある氏の彫刻遊具を配置したスポーツ広場が整備されている。

(3) 利用状況について

本施設は、市民はもちろん、カマタマーレ讃岐（J2）の練習場所や社会人及び学生の合宿や各種大会の会場として多くの人々に活用されています。平成29年度は、年間10万人もの利用者が訪れました。

(4) その他

詳細は別添資料のとおり

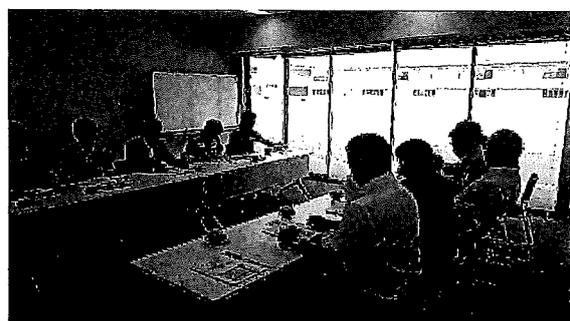
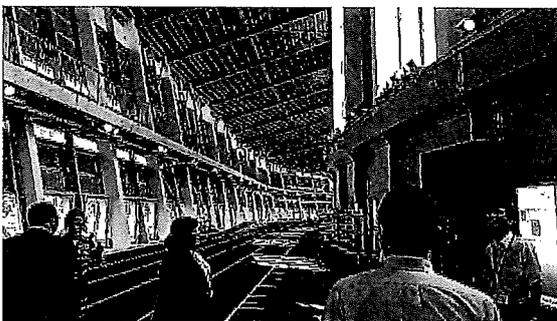
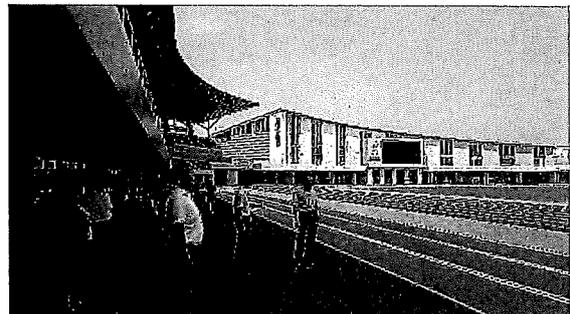
■所感

東京オリンピック・パラリンピックに向けての機運が高まる中、各地において様々な環境整備が進められています。高松市においては、ユニバーサルデザイン推進室を設置するとともに、全所属に推進員を配置し、全ての施策にユニ

ユニバーサルデザインの考え方を反映させる取り組みを進めていました。三沢市においても高松市と同じく「共生ホストタウン」に登録され、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリー化等を進めているところであるが、全庁的、さらには市一体となってユニバーサルタウン三沢を実現できる体制づくりが急務であると感じました。また、UCDAアワードを受賞した「申請書等のユニバーサルデザイン化」や、「UDたかまつプロジェクト」についても、三沢市においては実施されていない先進的な取り組みを学べたことは大変有意義でありました。今後の展開として、全国各地においてユニバーサルデザインの街づくりが進められていく中、いかにその地域の特性を活かした施策を展開できるかが大切なポイントであると考えます。

■研修の様子

高松市役所及び屋島レグザムフィールド



7月18日(水) 14時00分～15時30分

善通寺市産業振興部営業課

■地元特産物(讃岐もち麦ダイシモチ)の商品開発及び販路拡大について

(1) 讃岐もち麦ダイシモチとは

平成9年、四国農業試験場(現・西日本農業研究センター)において品種改良され誕生した裸麦のもち麦であり、市にゆかりのある弘法大師に因んでダイシモチと命名された。昨今、ダイシモチは、食物繊維が白米の約30倍以上、βグルカンが他の裸麦の約1.6倍以上含まれているなど、スーパーフードとして非常に注目を集めている。

(2) 「株式会社まんでがん」について

善通寺市の中心市街地活性化のために必要な事業運営を行うことを目的として、平成11年9月に設立された「まちづくり会社」。翌年5月には、TMO(中心市街地における商業まちづくりを運営・管理する機関)として市の認定を受け、様々なまちづくり事業を展開。現在は、讃岐もち麦ダイシモチのPR、販売、販路拡大等にも取り組んでいます。

(3) ダイシモチが特産品になり得た5つの要素

- ①善通寺で生まれた麦⇒ストーリー性
- ②作付けに適した風土⇒瀬戸内の気候、二毛作
- ③西日本有数の精麦会社の存在
- ④補助金の活用⇒かがわ産業支援財団 他
- ⑤人材の登用(営業のスペシャリスト)⇒民間飲料メーカー取締役

(4) その他

詳細は別添資料のとおり

■所感

善通寺市では、ここ5年間でダイシモチの作付け面積、収穫量が約400倍に増え、販売等を担う(株)まんでがんの事業収入も約4倍以上の増となるなど、大きな経済効果を得ています。近年、全国的に健康志向が高まる中、スーパーフードであるもち麦への注目度が高まったことで、ダイシモチを使用した加工商品の売れ行きも好調とのことでありました。三沢市においても特産品開発に取り組んでいるところですが、善通寺市の売り出し方(ストーリー性)や民間からの営業スペシャリストの登用については大きな学びを得たと感じます。ま

た、特産品開発の成功はシティープロモーションにもつながるため、自治体間競争が激しさを増す昨今、非常に重要なポイントであると考えます。善通寺市においては、今後、さらなる販路拡大を図るとともに、ダイシモチで培ったノウハウをもとに、新たな取り組みを実施することとしており、今後の展開が非常に楽しみであると感じました。

■研修の様子

善通寺市役所

